

## コース 23 ちょうかいさん 鳥海山

リーダー CL K/T SL M/T

実施日 平成26年8月17・18(日・月) 天候 雨・小雨とガス、時々曇り

参加者 22 (男性 3 女性 19)

グレード C上~D

### コースポイント

ポイント	到着時間	出発時間	備考
17日秋葉区役所前		5:00	休憩はまほろば、あつみ、鳥海の各道の駅
鉾立てコース登山口	9:15	9:35	9合目頂上小屋まで雨具着用 滝や稲倉山見えた
御浜小屋	11:50	12:20	小屋前でのお花畑を眼前に立ち昼食
七五三掛(しめかけ)	13:05	13:20	雪渓への降りの梯子は慎重に
御室小屋	15:50		小屋前の鳥海フスマ見事 バイオのトイシ綺麗
18日 新山往復	6:30	8:20	巨石累々の新山を慎重に往復2h. ガス・風和らいで全員完登降
七五三掛	10:50	10:55	下りは余裕でお花畑を楽しむ雪渓・梯子も無事通過
鉾立てコース登山口	14:10	14:35	小雨・ガスだが周囲は見渡せる
太平山荘入浴	14:40	16:00	女性の浴室は狭く3交替で手間取る
秋葉区役所前	20:10		往路と同じ道筋 定刻で帰着

### 山行等概要(幹事のコメント)

- 山行について…この山の登頂山行は、当会では平成14年まで3回実施されているが、それ以降12年が経過しているため、このたび久しぶりに計画実施した。今回参加した(L,SL除く)20名の参加者の内、再度、再々度挑戦する人7人、初めて挑戦する人13人ということでそれぞれの思いで参加され、また登下降を果たした後、それぞれの感慨に浸られたことと思う。
- 実施時期…この山は遅くまで雪が残り、秋は日照時間が短くなる。そこで実施時期は、①雪の心配がない ②夏と秋の花、双方の花が期待できる ③気候が安定していて、まだ寒くない これらを考慮して設定したが、③は外れ、②はある程度期待通りだった。①はその通り。
- コース…天候や山の状況、(予想)コー



鳥海山頂参籠所・御室小屋  
右手の岩にこの山の固有種チョウカイフスマが見える

スタイムを勘案し、当初計画を次のように変更した。

(当初計画) 初日＝大平口→御浜小屋→外輪山→七高山→御室小屋(頂上参籠所)  
翌日＝新山往復→千蛇谷→御浜小屋→鉾立口(「案内書」段階では7合目御浜小屋泊まりを予定)

(変更実施) 初日＝鉾立口→御浜小屋→千蛇谷→御室小屋(泊) 翌日＝新山往復→千蛇谷→御浜小屋→鉾立口 天候や山の状況、参加人数からこの変更は正解だったと思う。特に宿泊所を9合目御室小屋に変更したことは山頂往復を楽に、かつ安全にしたと実感した。

- 全体的に…大半が小雨とガスの中だったが、濃霧ではなく、終始周囲が見渡せて良かった。特に、巨石累々たる鳥海山頂(新山)の登下降の時は、不思議と雨は止み、ガスと風もほとんどなく、山の状況を眼に確かめながら、約2時間弱たっぴりと時間をかけて安全に全員が完登できた。千蛇谷から七五三掛(しめかけ)へは、花と雪渓、梯子と断崖など変化あるコースを楽しみ、往路と同じく御浜小屋で立ち昼食とした。残念ながら往路とも鳥海湖はガスの中だったが、小屋前の低い石垣が格好の食台となり、その向こうには以前と変わらずお花畑が広がっていた。賽の河原で少し晴れ間も見えてきて、やがて長い石畳が尽きて今回の変化あり、充実した成就感のある山行を終えた。

## 「鳥海山」に参加して

(1437) E/I

行きたいと思っていた鳥海山。6年前、新津ハイキングクラブに入って初めて行った山行でした。その時は滝の小屋から河原宿までのコース。私も頂上まで登れるようになりたいと思った山です。今回はC上～D、果たして登れるかどうか不安もありました。

8月17日、当日バスが鳥海ブルーラインまで来ると少し雨が降ってきました。鉾立登山口で雨具の準備をして登り始めることになりました。途中滝を見ることができ、賽ノ河原まで来ると、ニッコウキスゲ、チングルマなど色々な花々が咲いています。雨の中、足を進めると御浜小屋につき昼食。小雨の中、小屋の軒下を借り、立っての昼食になりました。これは初めての経験です。しっかり昼食を摂り早目に前へと進めることになりました。ここからしばらくは尾根風が強くな



鳥海山山頂(新山) 日本100名山 2,236m  
広さは畳2枚ほど、後ろ、左右絶壁  
2班のみなさん

り七五三掛（しめかけ）まで来る。ウゴアザミやチョウカイアザミ咲いている。鳥海山固有種だそうです。

ここからのコースは少し変更になり、千蛇谷を御室小屋まで進めることになりました。梯子や岩場など足場の悪いところもあり、雪渓の横断もありで、少しずつ前に進む。今度は長く続く登りでだんだん余裕もなくなり、花の名前を聞いてもすぐ忘れてしまう。やがてガスの中に大きな岩、頂上小屋に見える、でも違った。喜んだり、ガッカリしたりする。本当にやっと頂上御室小屋に着くことができました。



巨岩の積み重なった新山を下る  
先頭のグループは1班のみなさん

固有種チョウカイフスマの花が、小屋の前でお出迎えのように咲いていますが、雨とガスで周囲

の景色はなにも見えません。夕食までゆっくりする。夕食後、明日に備えて早く休む。

8月18日、朝は雨とガス。朝食を摂り、出発の頃には、雨も弱くなって来ました。新山には、空身で登る。次々と巨大溶岩、リーダーに三点確保と言われ、慎重に時間をかけて登り、最後に大きな岩を登って頂上に立つ。頂上は狭く班毎に交替であがる。「バンザイ！！」下りも自分に慎重にと言いつつ聞かせながら足をおく。頂上小屋まで下り、ザックをかつぎ、同じコースで下りる。

復路は少し余裕もあり、花々を觀賞しながらの下りとなった。シラネニンジン、イワギキョウなど70種類ぐらい有るかも知れないとのこと。名前も少しずつ覚えたい。春の花、夏の花、秋の花、これが見事に一斉に咲いていました。更に花を見ながらの下りが続き、賽ノ河原にさしかかる頃には雨も上がり晴れ、全員鉾立登山口に無事に帰ってくることができました。リーダーならびに参加者のみなさんお疲れさまでした。お世話になり、本当にありがとうございました。



鳥海山 千蛇谷コースの雪渓横断  
後方は3班のみなさん